

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的目標）		総合評価					
かしこく やさしく たくましく	考えることを 楽しめる 子ども	1 自ら課題を持ち解決に向けて、友や地域とかかわり合いながら主体的に学ぶ子ども		<ul style="list-style-type: none"> 本校の特徴の一つである、定期的な異学年との交流の機会を大切にする「縦割り活動・ペア活動」により、子どもたちが様々な学年の子どもたちとのつながりができてきており、日常的に声を掛け合うなどの姿が生まれてきている。 自分たちの発想をきっかけとして、自主的に始めた取り組みが、学級や学年を巻き込んだ活動へと広がる姿も見られるようになってきた。 					
		2 お互いの「良さ」を認め合い、相手の立場を理解して、物事を判断する子ども							
		3 活動の楽しさを味わいながら心身を鍛える子ども							
		今年度の重点目標		成果と課題		A	B	C	D
	①	かかわり合いのある「主体的・対話的」な授業の実施（学力向上）	<ul style="list-style-type: none"> UD化一人一公開授業を「算数」という教科で統一してよかった。 重点の算数では、考えることを楽しめるように、どうしてその答えになったのか、子どもの言葉で説明ができるよう機会を多く作った。 教科によって差はあるが、算数に力を入れ、子どもたちが自分で考えていく力がついたように思う。 	○				<ul style="list-style-type: none"> 次年度もこの方向を大事にする。1回目のUD化の研修で授業公開をして、それをもとに大学の先生の話も聴く方向もよいのではないかな。 他教科にも関わり合いを積極的ににつくりたい。 「考えることを楽しめる子ども」という重点は来年度も継続し、「思考力、判断力、表現力」をどのように捉え、評価していくか研究していく。 	
	②	互いの「良さ」をわかり合える学級・学年づくり（やさしい学校）	<ul style="list-style-type: none"> なかよし月間に関わって、「ふわふわことば」や「ありがとう」を掛け合う姿がある。お楽しみ会（ハロウィンパーティ・クリスマス会）の計画・運営を自主的に行い、楽しい活動に作り上げている。 人権の公開授業では、友だちのよいところをみんなで確認し合え、とても温かい良い授業となった。 	○				<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や日々の学習活動の中で、互いのよさを感じ取れる活動を今後も大切にしていける。 今年度の実践の成果を、来年度にも生かしていく。 来年度も、毎週水曜日1校時の道徳の位置づけをしていく。 	
	③	目当てを持って運動や活動に取り組む集団づくり（健康で安心・安全な学校）	<ul style="list-style-type: none"> なわとびの八の字回しを継続し、全員上達しとても喜んでいる。 大きな行事が終わったので、今後はクラス全体で目標を作れるような活動を考えたい（大縄など）。 行事の前には、めあてを確認して取り組んだ。 	○				<ul style="list-style-type: none"> 行事や学習活動の中で、子どもたちが活躍できる場面をつくり、それに寄り添いながら、目標達成できた喜びを醸成していく。 今年度は、全校体育を年間指導計画に位置づけ、姿勢づくりや体みがき体操に取り組む。 	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育課程		① 各教科における表現活動の充実	各教科・総合的な学習の時間の学習場面で、自分の考えを表したり、他者の考えを受け止めたりして自分の考えを深めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや、意味などを表現することはできるが、他の子の考えを受け入れることはまだ足りない。 個々の発言や書くことに加え、隣やグループで相談する時間も取り、自分の考えや友の考えを共有したり考えたりすることができた。 何を学習していくかは決まったが、活動が十分に進められなかった。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 継続して、意見交流する機会などを日々の中に取り入れていく。 子ども達がやりたいことを活かしつつも、見直しをもって計画を立てたい。 来年度、重点研究の中で「生活科および総合的な学習の時間」に視点をあてて、子どもの学びをどう捉えるか、子どもの姿と活動のねらいをどう結びつけていくか等、子どもの必要感に裏打ちされた活動の展開を考えていく。
		② 道徳教育・人権教育の充実	自分の考えをもち、自分とは異なった考えを持つ相手の立場にたった言動ができるようになったか。	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の公開授業に合わせて行った活動が、日常の中に取り入れられて、子どもたちに変化が見られる。 読み物教材の中の登場人物の状況を把握し、「自分なら…」と置き換えて考える子ども達もいるが、実際の友達の間では相手の立場になって考えるまでには至らない子もいる。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 日常の中に人権教育をいかに意識させるか、また、教師自身がいかに意識していくかを大切にしたい。 頭で理解していることと、実際に行動することの難しさを実感し、その中でもどう考え行動していくかを話し合っていきたい。
		③ 特別活動の充実	目当てをもって行動するとともに、自分の行動を振り返り、次の行動へのめあてをもつことができているか。	<ul style="list-style-type: none"> お楽しみ会では、自分のやりたい仕事やお店を計画運営することで、一人ひとりの表現や活動の幅が広がった。 児童会の引継ぎにあたり、子どもたちが自覚を持ってそれぞれの委員会活動に取り組もうとしている姿が見られた。 			○		<ul style="list-style-type: none"> めあてを書いただけになってしまうことのないように、振り返りの時間を大切にしていける。 来年度から始まる「キャリアパスポート」の累積について研究を深めていく。
学習指導		④ 読む活動の充実	朝読書、読み聞かせ、図書館の時間などの読書活動を教師の積極的なかかわりによって充実させているか。	<ul style="list-style-type: none"> 読書など朝の時間や図書館の時間に読んでいても、家では全く読まない子が課題。 たくさん本にふれることができ、読書量も定期的に調べて200冊を超える子が増えた。 集中して一人で読めない子には、一緒に読書するなどをして、毎朝時間をとることができた。 バリエーションブックさんからの本の寄贈により、学級文庫が充実した。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、親子読書などで、協力を呼びかけていく。 一緒に読書ができるよう時間を確保して読めるようにしたい。 読書時間で行っている「ビブリオバトル」の取り組みを、その他の時間にも取り入れるなど工夫していきたい。
		⑤ 授業の充実	考える活動、表現する活動を意識した授業に取り組み、主体的・対話的な学習が活発に展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> どのようにすればいいのか模索中。算数は研究会などで方向を出して取り組めたことは良かった。 教材研究については、充実してきた。また、考える活動や表現する活動をどのように位置づけていくか、職員間で話題にしなが、それぞれが取り組めた。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 来年度も、算数を窓口で、重点研究で深めていきたい。 個別の追究から全体追究へなどの形式にとらわれず、子どもたちの意欲に火をつけることを大切に、それぞれの教師が自分なりの形をつくっていききたい。
		⑥ 家庭学習の充実	基礎の定着及び学習への意欲を高める家庭学習が位置づけられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習をする習慣はついてきた。また、毎日の宿題が決まっており、それを必ずやる習慣がついている。 「自主学習」として複数の学年での取り組みが目された。 自主学習を行うことにより、自分でまとめていく力がついてきている。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 今後は、自主学習の量より質の向上をめざしていきたい。 次年度も「自主学習」への取り組みをさらに進めながら、家庭学習のあり方を考えていきたい。
生徒指導		⑦ 基本的な生活習慣の充実	自分からするあいさつ、「～くん、～さん」の友の呼び方、靴のかかとそろえ、時間のけじめなどの基本的習慣が日常的に身につくような指導がされていたか。	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ・返事・靴そろえ」でがんばっている。 チャイム着席は徹底することができ、どの子も身に付けることができています。 「自分から」のあいさつについて、更に大切にしていきたい。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 児童会中心に取り組んでいきたい。 基本的には「～くん」「～ちゃん」「～さん」と呼び合っているが、仲の良い同士だとあだ名で呼び合っている子もいるため、名前の呼び方について、更に考えていきたい。
		⑧ 自他を大切にする気持ちの醸成	学校生活全般で相手を意識させ、互いの気持ちを考えたり、相手に寄り添った行動がとれたりする場面を日常的に取り入れることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 問題が起こると、お互いの話を聞いてから、私だったらどうするかを伝え、解決できるようにしてきた。 教科でも生活でも相手のことを考えることを大切に取り組んだ。 教師が気持ちのゆとりを持って取り組むことが大切。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 教師が気持ちのゆとりを持って日々の指導に当たることが大切。 全ての教育活動の根本に、自他を大切にしていける人権意識を置き、指導に当たっていく。また、そのために、教師自身が人権感覚を磨いていく。
地域との連携		⑨ 地域に根ざした学習の充実	地域の自然・人材・文化財から学ぶ学習を仕組み、豊かな体験を通して人や物との関わりを学ぶ学習をすすめることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 多くの学年が前向きに取り組むことができた。 敬老園などの交流の他、地域の方に手伝っていただいた味噌づくりの発展学習に取り組めた。 地域の施設等での学習に積極的に取り組めた。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降に活かせる資料としての記録綴りを各学年で取り組んでいく。 来年度も、総合的な学習の時間とともに、教科の学習でも地域との関わりを大切にしていきたい。
		⑩ 情報の発信と連携	学校公開、学校・学年・学級便りなどを通して児童の様子や学校の願いを伝え、保護者・地域との連携に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なホームページの更新と、適時性を大切にしたメール送信を心がけた。 また、学校だよりも地域回覧を行い、好評を得た。 学級学年便りも、それぞれ子どもたちのあゆみかわかるような形で、家庭に伝えることができた。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 大切な情報については、紙ベースとメールと、必要に応じてホームページも利用して伝えていくようにしたい。 臨時休校時に有効だった安心安全メールのアンケート機能を来年度も活用していきたい。
研修		⑪ 授業の改善	明確な自己課題を持ち、その解決のために授業公開や各種研修に積極的に関わり自己研修に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> 多くの先生方が前向きに取り組んだ。特に職員室や休室等で児童の様子や授業に関わる話題が増えた。 重点ではそれぞれの学年の授業を見ることができた。 図書館大会に参加し、授業や休み時間に、いかに子どもたちに図書館を使ってもらえることができた。 			○		<ul style="list-style-type: none"> 来年度も職員自ら研修に取り組む姿勢を大切にしながら、得たことを職員間での話題として広げていきたい。